

1. 造林鎌研ぎ台の改良について

市浦営林署 ○成田日出男

相馬 勝則

1 はじめに

我が署の造林班は、基職10名、定期 7名の計17名で、太田、脇元、小泊の3担当区の事業を実行している。

他署でも状況は同じことと思われるが、職員の年齢構成が年々高くなり高齢化が進んでいる。

このような中で、いかに安全を確保し、作業の能率向上を図って行くかが課題であると考え、自分達で何かできることが無いかと話合ったところ、造林事業では、鎌を使用する作業が大半を占め、鎌の刃の研ぎ方の善し悪しが作業能率や安全面に大きく影響を与えることから、効率良く安全で、しかも切れ味の良く研げる「研ぎ台」を作ることにした。

そこで、他局で使用されている研ぎ台を基に、誰にでも簡単に正確に研げるよう改良した「研ぎ台」を作成したので、その結果について発表する。

2 改良の経過

従前における我が署の鎌研ぎ方法は、石の上や伐根の上に鎌をのせ、一方の手（右ききの者は左手）で柄を持ち、もう一方の手で砥石を持って研ぐというやり方であったが、この研ぎ方では、鎌が良く固定されず鎌が不安定となり、「とぎはずし」の危険や刃を均一に研ぎにくいため丸刃になったりするなど研磨に相当の熟練を要した。

そこで、L字型研ぎ台（他局で使用）（写真1）を作成し、使用したところ、

(1) 長所として

○誰にでも簡単に作れ、小型で持運びが容易である。

○「とぎはずし」の危険がなく、刃を均一に研げる。

(2) 短所として

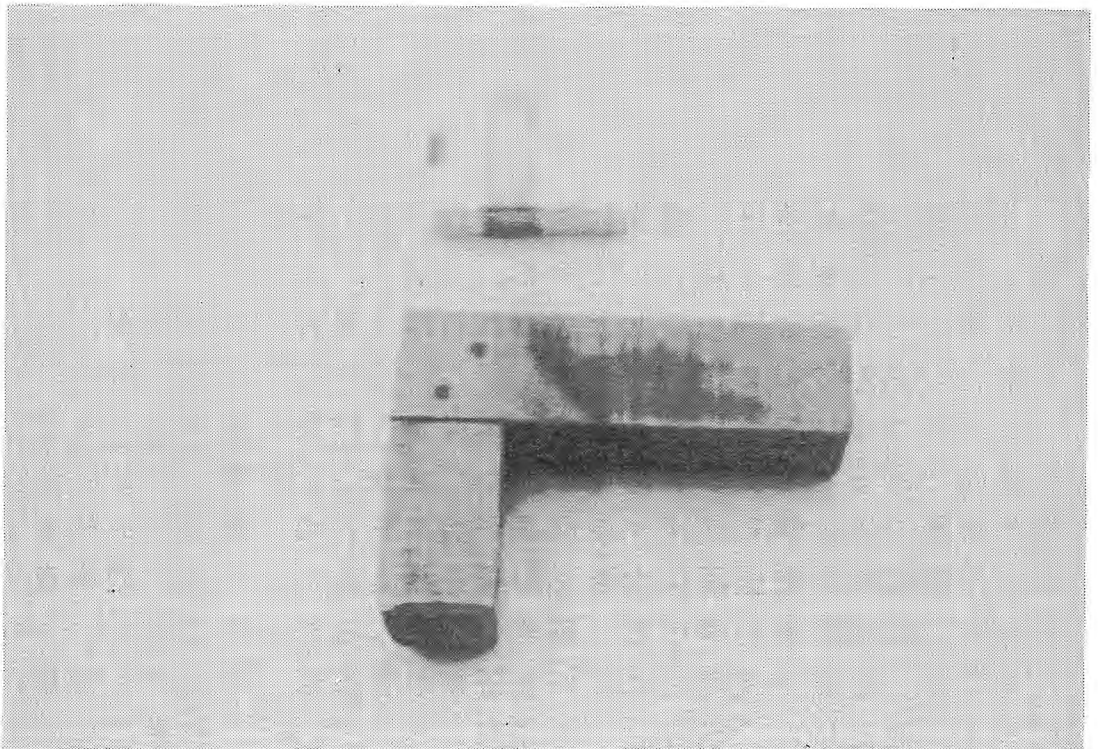
○両刃の鎌は研ぎにくい。

○下刈鎌は刃部が大きく、反れているため不安定である。

○柄を固定することができないので、力を入れ過ぎると不安定になる。

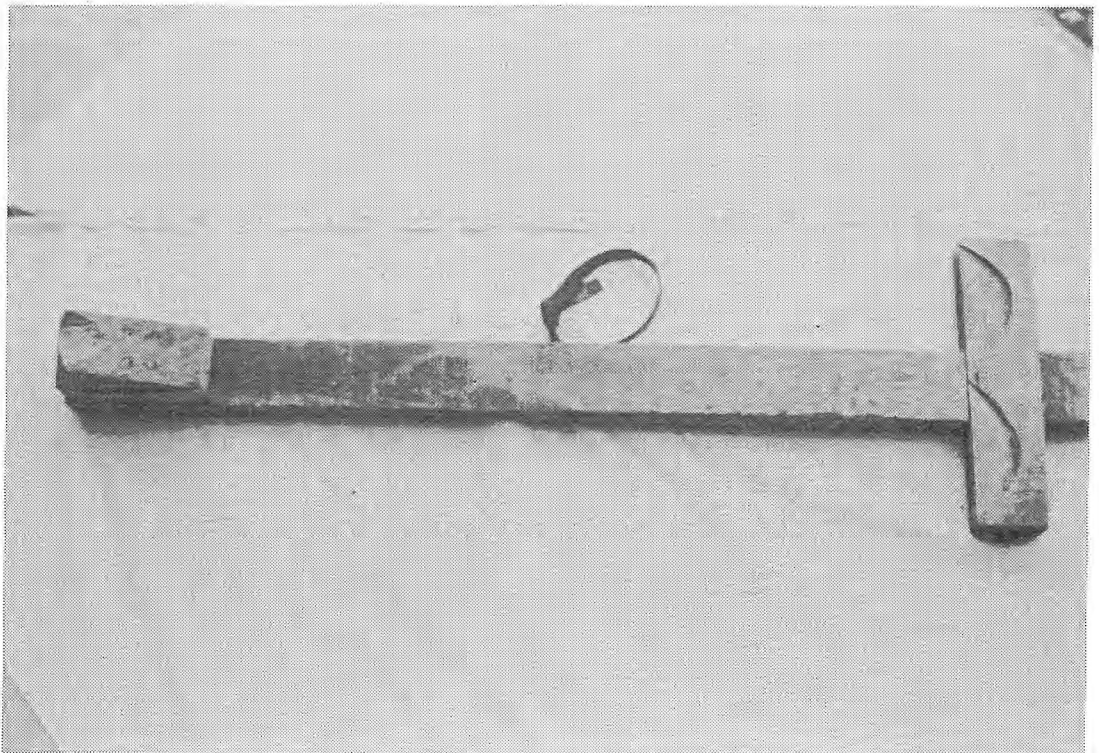
等の意見が出された。

(写真1)

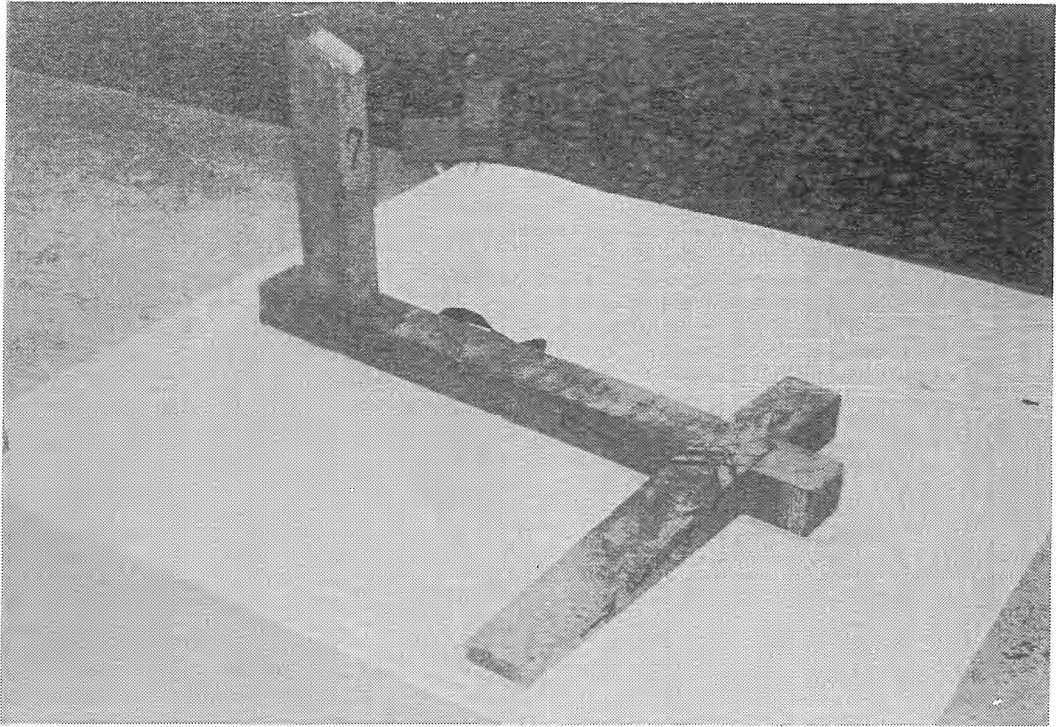


以上の意見の中から，短所として述べられたことについて改良すべく，皆で話し合った結果，除伐鎌用（写真2）と下刈鎌用（写真3）の研ぎ台を作成した。

(写真2)



(写真 3)



3 改良の結果

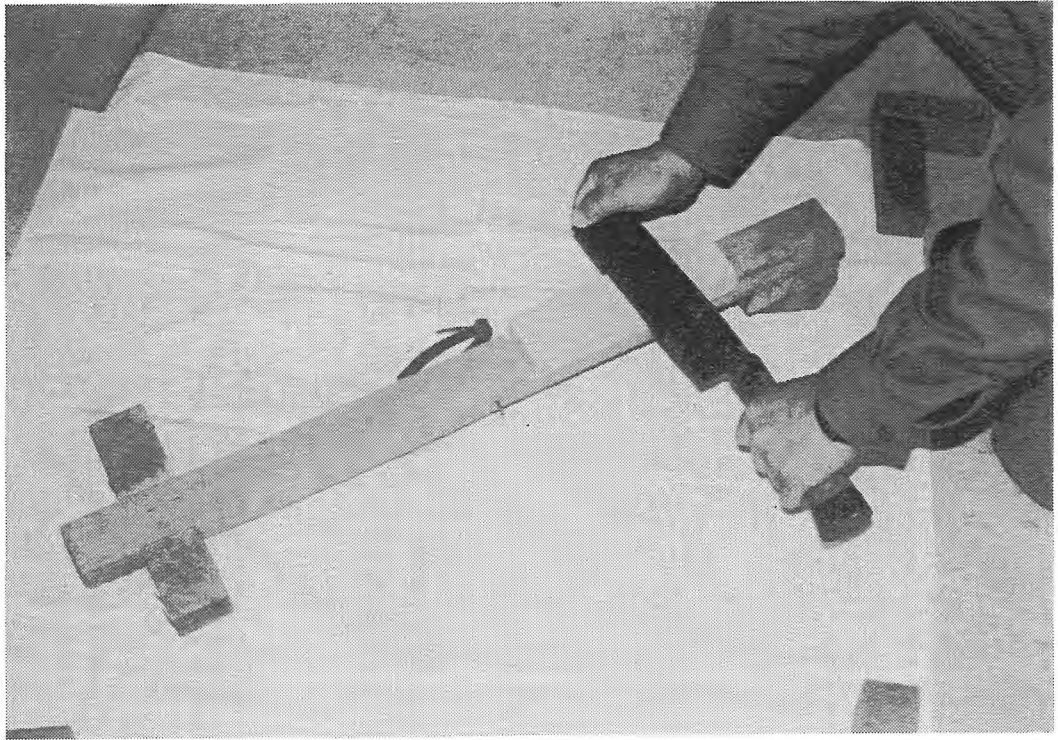
(1) 除伐鎌用研ぎ台 (写真 4, 5)

- 研ぎ台に鎌の柄を完全に固定できるようにゴム輪を付けた。
- 刃部が固定されように切り込みを入れた。
- 両刃でも研げるようにした。
- 鉋の研ぎ台も兼用できるようにした。

(写真 4)



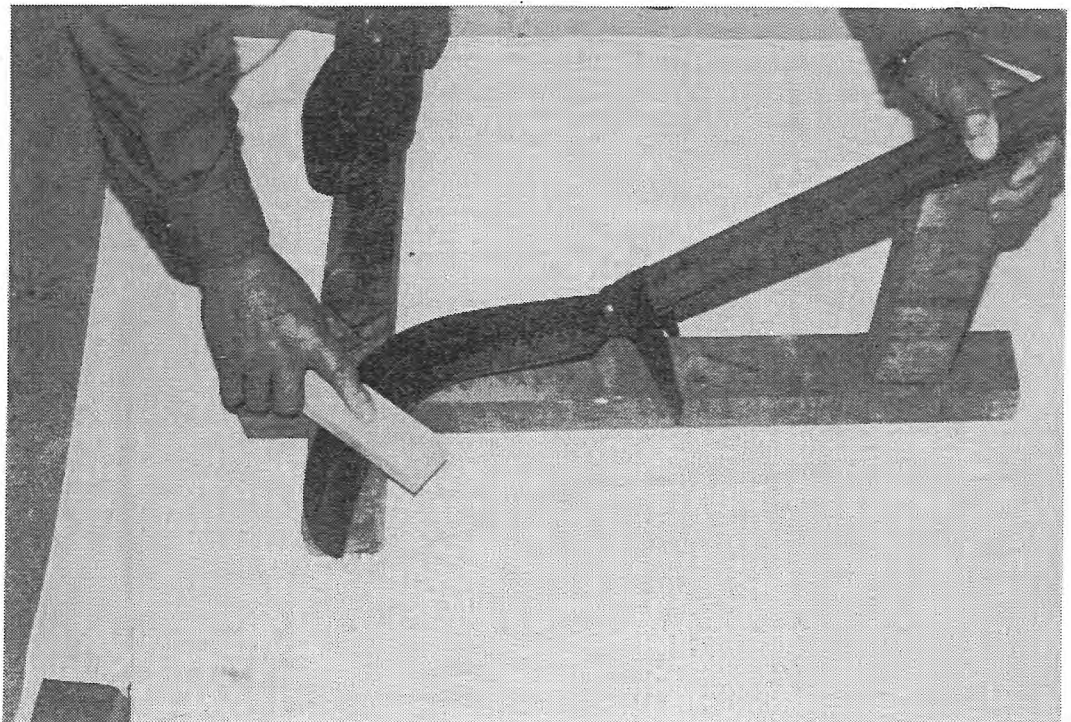
(写真5)



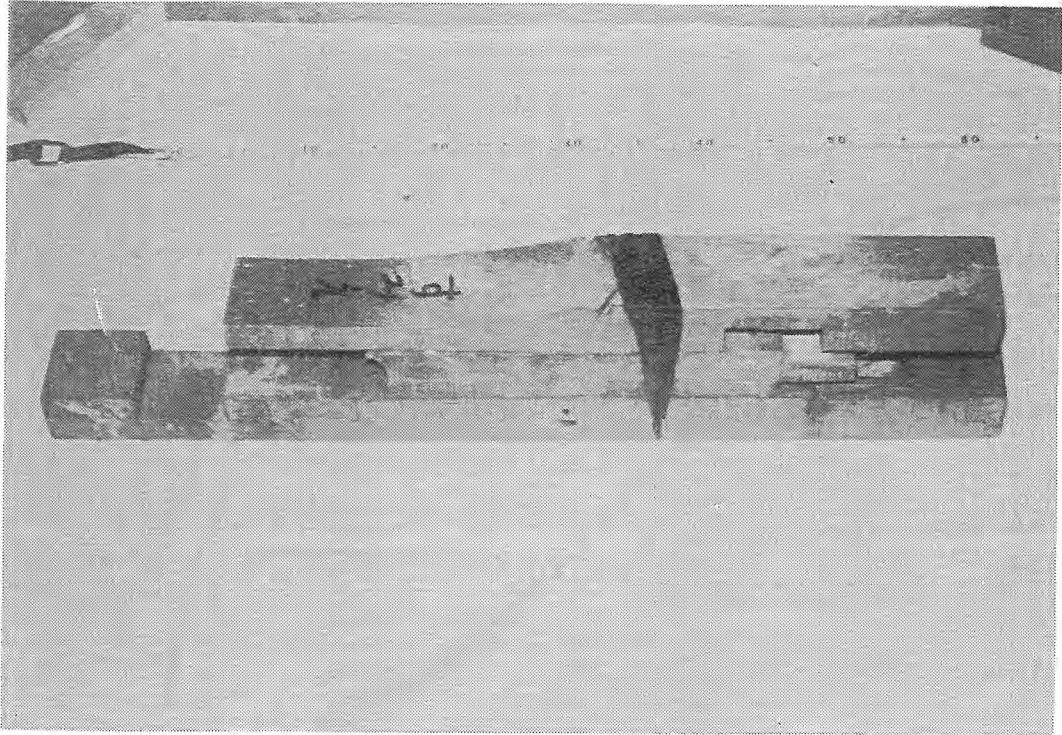
(2)下刈鎌用研ぎ台 (写真6, 7)

- 研ぎ台に鎌の柄を完全に固定できるようにゴム輪を付けた。
- 刃部が良く固定するように、支柱を取り付けた。
- 持運びを容易にするため解体できるようにした。

(写真6)



(写真7)



- 4 使用後の感想（除伐，下刈鎌用研ぎ台共通）
- 柄が固定され刃部が不安定にならないので研磨に集中でき，しかも余分な力がかからない。
 - 刃を均一に，しかも鋭利に研げる（丸刃にならない。）。
 - 「とぎはずし」の不安がなく，誰にでも安全に研げる。
 - 刃の切れ味が良くなったので，疲労が軽減された。
- 5 まとめ
- 以上のことから，この改良鎌研ぎ台を使用することにより，安全で効率的な鎌研ぎができ，造林事業の労働災害防止と効率的な作業に役立つものと考えている。
- なお，今後現場において使用しながら更に改良を重ね，より安全で効率的なものを作って行きたいと考えている。
- また，この研ぎ台の改良に当たって，造林班皆が意見を出し合い改良に取り組んだことで，班の和がより強まり，班全体に活気がでてきた。